

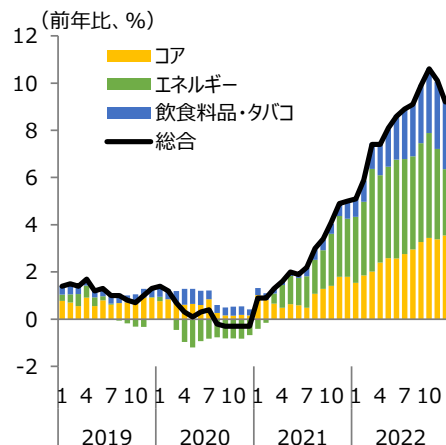
欧州

消費者物価（2022年12月）

エネルギー価格上昇に一服感、コアは高止まり

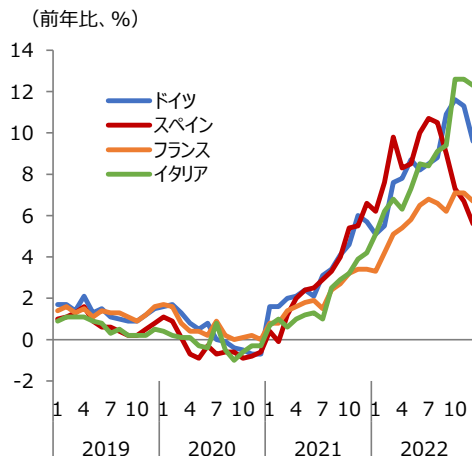
政策・経済センター
綿谷謙吾
03-6858-2717

1 消費者物価（ユーロ圏、寄与度）



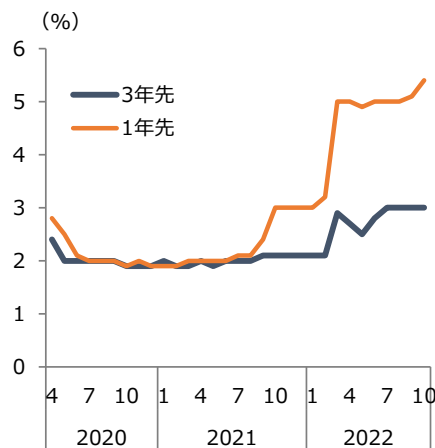
出所：Eurostatより三菱総合研究所作成

2 消費者物価（主要国、総合）

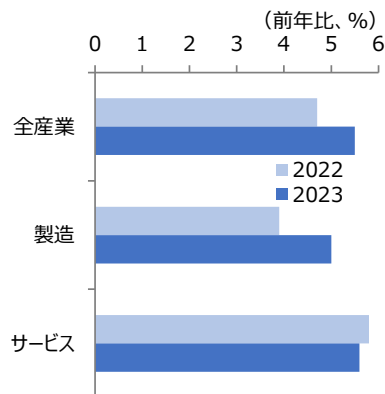


出所：Eurostatより三菱総合研究所作成

3 期待インフレ（ユーロ圏、家計）

注：中央値
出所：ECBより三菱総合研究所作成

4 賃金の予想（ドイツ）

注：人事部門のマネージャーを対象とした調査。自社の、従業員の賃金の上昇率の予想。
出所：Randstad ifo Personnel Manager Surveyより三菱総合研究所作成

評価ポイント

今回の結果

- 22年12月のユーロ圏の消費者物価指数（HICP、速報値）は前年同月比+9.2%（図表1）。2カ月連続で伸びが鈍化し、10%を下回った。
- 物価の伸びが鈍化した主因はエネルギー価格高騰が一服したからだ。一方で、ECBが重視するコア物価は前年同月比+5.2%と、前月（同+5.0%）から伸びが拡大している。
- 主要国では、ドイツの伸びが鈍化（前年同月比+9.6%）（図表2）。23年1月からのエネルギー価格上限導入を前にした、ガス料金の支払い減免により、エネルギー価格が大きく低下した。ユーロ圏主要国の物価は、エネルギー価格低下を主因にピークに達しつつあるが、コア物価は高止まりしている。

基調判断と今後の流れ

- ユーロ圏の消費者物価は、伸びは鈍化したが高水準にある。
- ユーロ圏の物価上昇の主因であったエネルギー価格は、暖冬による天然ガス需給緩和、エネルギー価格の上限設定などの政策支援から今後も伸びが鈍化し、物価を押し下げるとみる。
- 先行きの注目は、期待インフレの高止まり・賃金上昇を背景に、コア物価の高い伸びが続くかだ。
- 家計の期待インフレは、ECBの利上げ開始後も高止まりしている（図表3）。期待インフレが高止まりすれば、将来の物価上昇を見込み、労働者は高めの賃金を要求する。実際にドイツの自動車大手では、8%の賃上げ要求に対して、インフレ手当の支給と23年に5%台、24年に3%台の賃金上昇で妥結した。
- ifo経済研究所の調査によると、ドイツ企業の人事マネージャーは23年も高めの賃金上昇を見込んでいる（図表4）。特に賃金の上昇分が価格に反映されやすいサービス業は、高めの伸びが続くとみている。高めの賃金上昇が続けば、コア物価の高止まりが続き、ECBの引き締めが長期化するだろう。